

ご注意

- 本製品が性能を発揮するよう、設置の際は本ラベルを熟読し記載通り設置してください。誤った取り付けでは効果を発揮しません。
- 重心位置が高い等バランスが悪いものは取付数を増やして使用してください。
- 設置面積が不十分な(凹凸や格子状)場合、十分な粘着力が得られません。
- 設置面のゴミ、ホコリ、水分、油分を十分に取り除いてください。
- 設置後は粘着を安定させるため、2時間はふれないでください。
- 耐震マットの粘着具合は接地面の種類によって異なるため、相性表をよく確認の上ご使用ください。相性が良い場合でも設置面が劣化し脆くなっている場合や、強度が低い場合は使用できません。
- フッ素樹脂加工など撥水性のものには使用できません。
- 耐用年数は7年です。7年経過後は、取り替えてください。
- 50℃以上かつ湿度60%以上の環境では耐用年数が短くなることがあります。
- 経年変化により変色する場合がありますが、基本性能には問題がありません。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所での保管は避けてください。
- 保護フィルムを貼った状態で保管してください。
- 保護フィルムは必ずはがして、ご使用ください。
- 本製品で物を吊り下げないでください。
- 取り外し後、材質によっては設置場所と周辺に差が生じる場合があります。
- 地震が発生した場合は、異常がないか確認してください。

■耐震マットと設置面の相性

※設置したい場所にテープ(セロハンテープ、ガムテープ)が、シッカリと粘着すれば使用可能です。

設置面の種類	粘着性	設置面の種類	粘着性
金属	○	フローリング	○
PVC(硬質塩化ビニル樹脂)	○	フロアタイル	○
ABS	○	クッションフロア	×
PC(ポリカーボネート樹脂)	○	塗装済コンクリート(エポキシ・メラミン系)	○
PE(ポリエチレン)	×	カーペット	×
PP(ポリプロピレン)	×	畳	×
フッ素樹脂、フッ素加工	×	撥水加工、防汚加工	×



ミライの耐震部材

ピタ7

ストッパー

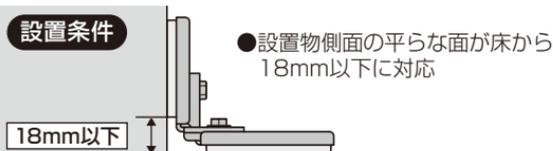
品番

P7-STM

1セット
(4コ入)

- 設置物の重さ：60kgまで(4コ使用時)
※2コ使用時は30kgまで
- 設置物の高さ：1000mmまで
- 重心位置：500mmまで

設置条件



- 設置物の側面と床面に取り付けることで地震対策ができます。

※震度7相当(兵庫県南部地震(阪神大震災)再現波の1.2倍)の耐震試験にて効果を確認

- 本製品は地震の被害を軽減する商品です。本製品使用により発生した破損事故や地震による損害に対して責任を負うものではありません。

金属製 屋内用

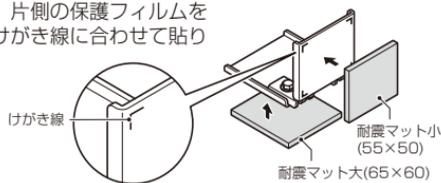


未来工業株式会社

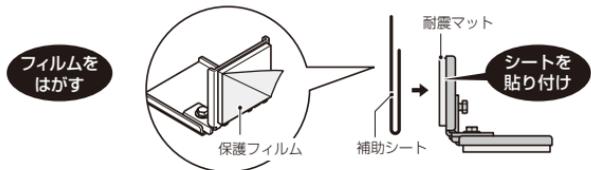
設置方法

- 耐震マット貼り付け面(製品および設置物)のホコリ・油・水をしっかりと取り除きます。※消毒用エタノールで清掃するとラクに入れます。(消毒用エタノールを使用される際は、床面や設置物を変色させる恐れがあるためご注意ください。)

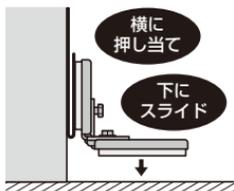
- ①添付の耐震マットを、片側の保護フィルムをはがして製品本体のけがき線に合わせて貼り付けます。



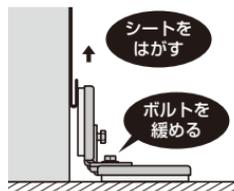
- ②耐震マットの保護フィルム(2ヶ所)をはがし、設置物取付側(1ヶ所)の耐震マットに添付の補助シートを貼り付けます。
※補助シートは図のように折り曲げてください。



- ③補助シートを設置物の側面に軽く押し当てながら下にスライドさせ、床面に耐震マットを貼り付けます。



- ④耐震マットに貼り付けた補助シートを引いてはがし、下側のボルト(2ヶ所)を緩めます。



- ⑤上側のボルト(1ヶ所)を締め付け、耐震マットを設置物側面に固定し、③で緩めた下側のボルトを締め付けます。
※ボルトは締め付けすぎないように注意してください。(金具が浮いてしまう恐れがあります。)

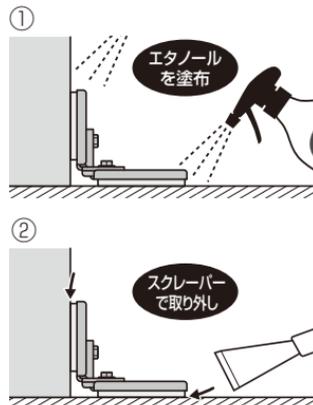


下側ボルトの推奨締付トルク: 3.5N・m

- 施工完了後、添付の施工日シールに施工した日を記載し、製品に貼り付けてください。

取り外し方

- ①消毒用エタノールを耐震マットの周りにたぐりりと塗布します。
※床面側、設置物側どちらにも塗布してください。
※消毒用エタノールを使用される際は、床面や設置物を変色させる恐れがあるためご注意ください。
- ②スクレーパーを使用して耐震マットをはがします。
※耐震マットはゆっくり少しずつはがしてください。



再使用時のご注意

- 再使用される場合は、必ず水洗い後、完全に乾いてから使用してください。
- 油分やホコリなど水洗いでは落ちない場合には、中性洗剤で洗ってください。
- 酸性、アルカリ性の強い洗剤は粘着力が低下してしまう恐れがあります。
- 洗浄後、ゴミ、油分等が残っている場合は、粘着力が低下している恐れがあります。

ご注意

- 本製品が性能を発揮するよう、設置の際は本ラベルを熟読し記載通り設置してください。誤った取り付けでは効果を発揮しません。
- 重心位置が高い等バランスが悪いものは取付数を増やして使用してください。
- 設置面積が不十分な(凹凸や格子状)場合、十分な粘着力が得られません。
- 設置面のゴミ、ホコリ、水分、油分を十分に取り除いてください。
- 設置後は粘着を安定させるため、2時間はふれないでください。
- 耐震マットの粘着具合は接地面の種類によって異なるため、相性表をよく確認の上ご使用ください。相性が良い場合でも設置面が劣化し脆くなっている場合や、強度が低い場合は使用できません。
- フッ素樹脂加工など撥水性のものには使用できません。
- 耐用年数は7年です。7年経過後は、取り替えてください。
- 50℃以上かつ湿度60%以上の環境では耐用年数が短くなることがあります。
- 経年変化により変色する場合がありますが、基本性能には問題がありません。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所での保管は避けてください。
- 保護フィルムを貼った状態で保管してください。
- 保護フィルムは必ずはがして、ご使用ください。
- 本製品で物を吊り下げないでください。
- 取り外し後、材質によっては設置場所と周辺に差が生じる場合があります。
- 地震が発生した場合は、異常がないか確認してください。

■耐震マットと設置面の相性

※設置したい場所にテープ(セロハンテープ、ガムテープ)が、シッカリと粘着すれば使用可能です。

設置面の種類	粘着性	設置面の種類	粘着性
金属	○	フローリング	○
PVC(硬質塩化ビニル樹脂)	○	フロアタイル	○
ABS	○	クッションフロア	×
PC(ポリカーボネート樹脂)	○	塗装済コンクリート(エポキシ・メラミン系)	○
PE(ポリエチレン)	×	カーペット	×
PP(ポリプロピレン)	×	畳	×
フッ素樹脂、フッ素加工	×	撥水加工、防汚加工	×



ミライの耐震部材

ピタ7

ストッパー

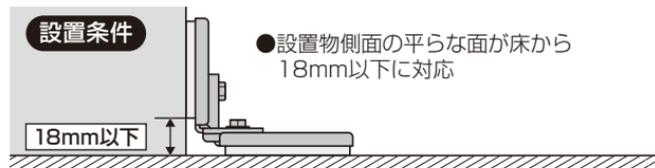
品番

P7-STL

1セット
(4コ入)

- 設置物の重さ：200kgまで(4コ使用時)
※2コ使用時は100kgまで
- 設置物の高さ：1000mmまで
- 重心位置：500mmまで

設置条件



- 設置物の側面と床面に取り付けることで地震対策ができます。

※震度7相当(兵庫県南部地震(阪神大震災)再現波の1.2倍)の耐震試験にて効果を確認

- 本製品は地震の被害を軽減する商品です。本製品使用により発生した破損事故や地震による損害に対して責任を負うものではありません。

金属製 屋内用



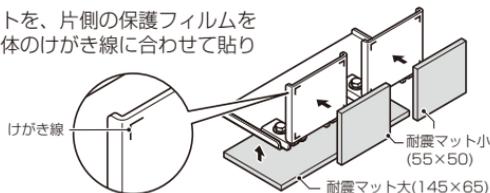
未来工業株式会社

2122P

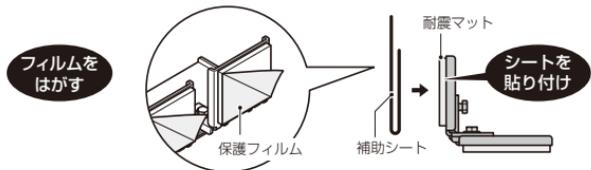
設置方法

- 耐震マット貼り付け面(製品および設置物)のホコリ・油・水をしっかりと取り除きます。※消毒用エタノールで清掃するとラクに行えます。(消毒用エタノールを使用される際は、床面や設置物を変色させる恐れがあるためご注意ください。)

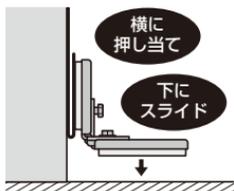
- ①添付の耐震マットを、片側の保護フィルムをはがして製品本体のけがき線に合わせて貼り付けます。



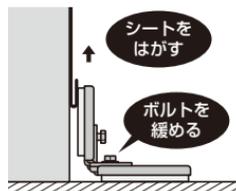
- ②耐震マットの保護フィルム(3ヶ所)をはがし、設置物取付側(2ヶ所)の耐震マットに添付の補助シートを貼り付けます。
※補助シートは図のように折り曲げてください。



- ③補助シートを設置物の側面に軽く押し当てながら下にスライドさせ、床面に耐震マットを貼り付けます。



- ④耐震マットに貼り付けた補助シートを引いてはがし、下側のボルト(4ヶ所)を緩めます。



- ⑤上側のボルト(2ヶ所)を締め付け、耐震マットを設置物側面に固定し、④で緩めた下側のボルトを締め付けます。
※ボルトは締め付けすぎないように注意してください。(金具が浮いてしまう恐れがあります。)

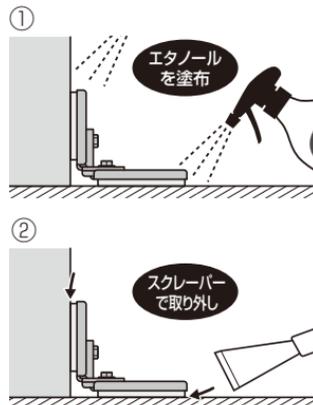
下側ボルトの推奨締付トルク: 3.5N・m

- 施工完了後、添付の施工日シールに施工した日を記載し、製品に貼り付けてください。



取り外し方

- ①消毒用エタノールを耐震マットの周りにたっぷり塗布します。
※床面側、設置物側どちらにも塗布してください。
※消毒用エタノールを使用される際は、床面や設置物を変色させる恐れがあるためご注意ください。
- ②スクレーパーを使用して耐震マットをはがします。
※耐震マットはゆっくり少しずつはがしてください。



再使用時のご注意

- 再使用される場合は、必ず水洗い後、完全に乾いてから使用してください。
- 油分やホコリなど水洗いでは落ちない場合には、中性洗剤で洗ってください。
- 酸性、アルカリ性の強い洗剤は粘着力が低下してしまう恐れがあります。
- 洗浄後、ゴミ、油分等が残っている場合は、粘着力が低下している恐れがあります。